



インガラバー

NPO法人
 日本・ミャンマー
 医療人育成支援協会
 〒700-0811
 岡山県岡山市北区番町2丁目6番7号
 TEL:086-224-0102
 URL:http://www.mjcp.or.jp

医療関係者14人が訪問 実践指導や研究発表



ミャンマー医学研究会に参加したヤンゴンの脳神経外科医と一緒に。左から4人目が筆者

遺伝病

診断キット手応え

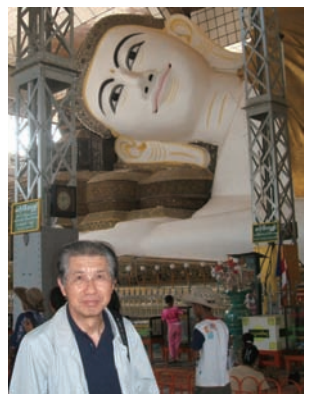
岡山大学
 総合診療内科
 客員研究員
原野 昭雄
 (協会理事)

岡山大学を中心にした医療関係者が1月9日から13日まで、ミャンマーを訪れました。総勢14人。その中から2人に報告してもらいました。

ミャンマー訪問は2年ぶりだった。最貧国の1つと呼ばれ、諸外国からの経済援助は断たれ、孤立状態でありながらいかに発展しているか。軍政から民政への移行による変貌も興味があった。ヤンゴン国際空港は2年前に比べ、設備は見違えるほどよくなり、入国手続き

や荷物受取りもスムーズに進み、気持ちよく入国できた。空港から市街地へ通じる道路もかなり整備されているように思えた。しかし、右側通行でありながら、右ハンドルの20年前のトヨタ、ニッサンといった乗用車、日本の交通会社名や宅配便名の入ったバス、トラックが猛スピードで走って、少し渋滞すると、2車線のところがたちまち3車線に。ちよつと車間距離が開くと左右どこからともなく人が出てきて横断、よくもまあ事故が起これないものだと感心する。こんな交通マナーは2年前と同じであった。

ミャンマーには敬虔な仏教徒が多い。毎週末には、いたる所にある大小のパゴダ(寺院)に礼拝のため多くの家族が集まる。金箔で飾られた仏塔、大きく見開いた



バゴの寝仏を前に筆者

目、笑みを込めた口元、顔は真っ白の仏像は日本のお寺で見るとは違い、常に微笑んでいる。寝仏にしてもそう。日本の仏像を見ていると、座禅を組み、じつと瞑想したくなるものだが、この国の仏像を前にして手を合わせ仏像の顔を見ると、肩の力は抜け、微笑みたくなるような気さえする。

この地域を含む東南アジアは第二次大戦中に日本兵が悩まされたマラリアの流行地だ。しかし、この地域に住む人々は、マラリアに抵抗性を持つ人が多く、この風

子診断は近年盛んに行われているが、技術的不備によっては全く用をなさず、間違った判定をすることさえある。そのために、1つは取り扱いは簡単でなければならぬ。医療技師には、手を動かさず良い結果が得られると信じている人が多い。「間違いない指示された手順で行った。なぜ、よい結果が得られないのか」と言い張ることもある。もう1つは、環境にやさしいことだ。これも現在の社会においては欠かす事のできない。大都市ヤンゴンの市街地でも、少し裏道に入れば多くのゴミが捨てられ、悪臭を放っている。単なる臭いはヒトの健康に害はないかも知れないが、化学薬品はそうはゆかない。私はこのようなことを考

ヤンゴンの脳神経外科医は15人

岡山大学脳神経外科

教授 **伊達 勲**

ある小出典男教授から「ミャンマーと一緒にいきましょう」と声をかけていた

いて数ヶ月後の今年1月、初めてヤンゴンを訪れました。ミャンマーの脳神経外科がどうなっているかなどの情報は事前にはまったくなく、ミャンマー医学研究会で発

表す内容もどのレベルで話したらよいか、いろいろ考

私同様、今回が初訪問の岡山大学の吉野正・病理学教授、氏家良人・救急医学教授、八木孝仁・肝胆脾

勢14人は、関空からベトナムを経由してヤンゴンに到着しました。宿泊先のトレー

私は大きな脳動脈瘤のク

ました。ヤンゴンで働いている全15人の脳神経外科医のうち7人が参加し、ポイント

1週間を8日で数える8曜日が大切で、私の誕生日は火曜日ライオンだそうす。

最終日に訪れたシュエダ

今回は病院訪問ができたので、次に機会があれば脳神経外科医のいる病院を訪ね、交流ができればと思います。

診断技術の習得へ

岡山大学総合診療内科で

ミャンマーの女性医師2人が協会の招きで来日し、研修中です。

サン・サンダ・キンさん(37)とタン・タン・エイさん

2月上旬から4月中旬まで岡山大学病院総合診療内科(小出典男教授)で、原野昭雄客員研究員が開発したサラセミア遺伝子診断キットを用いて診断方法などを勉強。また途中、兵庫県尼崎市にある和光純薬臨床薬学研究所でも研修を受けました。

原野研究員は「10週間の研修ですが、その間に2人が技術を習得し、ミャンマーに多いこの遺伝病の患者の暗い顔を微笑みに変えるよう、そんな指導者になってもらいたい」と期待しています。



研修中のサン・サンダ・キンさん(右)とタン・タン・エイさん
和光純薬臨床薬学研究所

こんにちは

サン・サンダ・キンさん
タン・タン・エイさん

研修の3人

ありがとう

ミヤ・ミヤ・エイさん

長崎大学で研修してミヤンマーに帰国したミヤ・ミヤ・エイ医師からお礼の便りが届きましたので紹介します。

私はヤンゴンにあるミヤンマー医学研究局の研究者ですが、昨年、協会に招かれて

長崎大学熱帯研究所でピロリ菌の分子病理学的研究手法を10週間にわたって学ばせていただきました。最初に機器の使用方法、ガラス器具の洗い方、使用する化学物質などについての手ほどきを受け、後の実験は、まずスタッフがデモンストレーションを見せてくださり、私はそのスタッフの監督のもとでその手法を自分で行いました。こうして学んだ技術はミヤンマーでの研究、とくにピロリ菌の研究技術の向上にとっても役立ちます。

長崎大学の細菌学教室は近代的な器具・装置を持っていますが、そればかりではなく、研究者が守るべきまじりをきちんと守って研究していました。教授やすべての研究員は非常に根気よく私に教えてくださり、私が必要としていたサンプルや薬品も最大限に使わせてくださいました。この研修中に会った日本人はみんな率直で、優しさにあふれ、非常に興味ある文化と生活様式をもっていました。

広報室から

失ったものがそこにある

司馬遼太郎著「坂の上の雲」の主人公の一人、秋山好古は「日本騎兵の父」と呼ばれ、その暮らしぶりは質素で、高い志とリーダーシップを兼ねた名将だったそうです。陸軍大将を退役後は、郷里松山中学校の校長に就任しました。

その校長時代、修学旅行先に当時の日本統治下にあった朝鮮を選んだというエピソードが残っています。朝鮮には学ぶべきものがないと対意見も少なからずあった中、好古はあえて朝鮮に決めたのです。実際に朝鮮を見聞した生徒たちはその文化の素晴らしさに触れ、今まで卑下していた朝鮮のことを尊敬するようになったそうです。私はこの話を聞いたとき、好古の博愛精神と、彼の期待を裏切らなかつた若者たちの純真さ、柔軟さに心を打たれました。

外国に行くって意識が変わったといえ、知人から「孫がミャンマー旅行から帰ってきて、朝夕仏壇に手を合わせるようになった」という話を聞きました。ミャンマーは仏教が盛んで、成人として認められるためには、必ず僧侶としていくらかの期間、修行しなくてはならないそうです。それと関係あるかどうかはわかりませんが、このお孫さんの行いに感心したのです。

私たちの子供時代は、まだ日本も貧しくて、舶来品といえば憧れでした。品質も良くデザインもあか抜けていて、日本人みんながこういう品物を作りたいと努力しました。あの時代に比べ、今の日本人は変わってきた気がします。豊かで、優れた日本製品に囲まれているにもかかわらず、日本人の誇りはどこにいったのかと思えます。日本人はもっと勤勉で、礼儀正しく、国を愛し、祖先や家族を大切に国民だった気がしてなりません。

私は、ミャンマーに何回も行き、かの国を見るにつけ、かつての日本を思い出し、日本人が失ったものがそこにある気がするのです。ミャンマーの人々は貧しいけれども明るく一生懸命で、きらきら輝く瞳を持っています。貧しいゆえに助け合う心にあふれています。

この会の名前には「支援」と付いていますが、それは一方的な援助や、まして施しをする会ではありません。医療という人類には欠かせない研究のために協力しあう会です。ミャンマーにも学ぶべきことが沢山あるのです。

今、この拙文を読んでくださっているあなたは、ミャンマーのことをもっともっと知ってください。自らを知るために、外国に行ったり、外国人と付き合ってみたりすることは非常に有意義なことだと思います。ミャンマーを通じて私たちの暮らしを再認識するきっかけにしてみませんか。

(理事 西山央子)

福山に支部 事務所を開設

協会だより



先の理事会で、福山支部の設置を決め、支部長に西山央子理事が就任しました。同理事が経営する福山市御幸町下岩成1144-3の「あかね動物病院」の東棟に事務所を置きました。

協会支部はこれが初めて。福山、尾道、三原市などの備後地域は岡山市に次いで会員数が多いところで、この地域の活動拠点をめざします。

事務所は広さ約60平方メートル。机やソファなどを備え、協会の活動内容を

NGOフェアに参加 岡田理事長が講演

JR岡山駅西側の国際交流センターで開催中の国際貢献NGOフェアに参加しました。

期間中の2月24日から3月2日まで、これまでの活動ぶりについてパネル展示し写真。2月6日には岡



新理事に永山さん

このほど開いた理事会で新しい理事に永山久夫さんを選びました。永山さんは岡山プラザホテル代表取締役。歯科医師でもあり、元岡山赤十字病院口腔外科部長。

新たに募金箱

支援を呼びかける募金箱を新たに広島県福山市沖野上町4-23-28、たばこ店「きつかわ」(TEL 084-931-2135)が設置してくださいました。募金箱の設置場所については前号に掲載済みですが、これまで大勢の方から募金を寄せていただいています。厚くお礼を申し上げます。